

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673000659
法人名	株式会社 狩川佐藤組
事業所名	グループホーム やまゆり
訪問調査日	平成 21 年 2 月 9 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 1 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	673000659		
法人名	株式会社 狩川佐藤組		
事業所名	グループホーム やまゆり		
所在地 (電話番号)	山形県東田川郡庄内町狩川字小縄3-3 (電話) 0234-51-2580		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成21年2月9日	評価確定日	平成21年4月1日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 6 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7.6 人	

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独		○新築/改築	
建物構造	木造平屋 造り			
	1階建ての		階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無		有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 79 歳	最低 63 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)奥山医院、奥山歯科診療所、谷家歯科診療所
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「どうすれば家庭での生活に近づけることができるのか、どうすれば利用者のためになるのか」を、管理者と職員が利用者の視点から常に考え、その中での気づきを大切にしながら学び続けているホームです。また、ホーム前で行っている児童が登校する際の「見守り隊」が町の交通安全協会から表彰されるなど、地域の中での役割も担いながら、地域の一員として暮らしていくことにも積極的に取り組んでいるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	消防署の協力も得ながら、地震、火災、水害についての防災訓練が年2回実施されており、その内1回は夜間を想定した訓練となっている。また、地元消防団への緊急時の協力依頼も行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価について職員全員で話し合い、課題について検討しながら質の向上にむけて改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	家族や行政、地域住民の代表の参加による運営推進会議を定期的に開催しており、ホームの利用状況の報告や災害時の一時避難場所としてホームを利用する話し合いなどが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や運営推進会議の際、意見や苦情、要望等を家族に聞くようにしており、把握できた内容は職員会議で検討しながら運営にも反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事や幼稚園・小中学校の行事に招待される、ボランティアによる演芸の催しの際は地域の方もホームに招く、児童が登校する際の見守り隊を引き受けるなど、地元の人々と交流できる機会を増やすようにしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念の基本方針に「安心・尊厳・地域社会・家族」があり、「住み慣れた地域の中で喜びと自信を持ち、いつまでも自分らしい生活を送るために」という理念をつくっている。		
		○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やケース検討会議の中で管理者と職員が基本方針について話し合いを行い、理念の共有の取り組みを進めている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や幼稚園・小中学校の行事に招待される、ボランティアによる演芸の催しの際は地域の方もホームに招く、児童が登校する際の見守り隊を引き受けるなど、地元の人々と交流できる機会を増やすようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について職員全員で話し合い、課題について検討しながら質の向上にむけて改善に取り組んでいる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や行政、地域住民の代表の参加による運営推進会議を定期的開催しており、ホームの利用状況の報告や災害時の一時避難場所としてホームを利用する話し合いなどが行われている。		

山形県 グループホームやまゆり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>通常の連絡や相談だけでなく、町の事業（認知症サポーター講座等）に講師を派遣したり、また、実習受入時にも連携が図られている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用者の生活の様子や金銭状況の報告が毎月行われており、写真を多用したホーム便りも四半期ごとに送付されている。また、健康状態についてはその都度、電話で連絡と確認をしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や運営推進会議の際、意見や苦情、要望等を家族に聞くようにしており、把握できた内容は職員会議で検討しながら運営にも反映させている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>同じ建物内にあるデイサービス部門との間で職員異動はあるが、全体行事を通して、職員と利用者の顔馴染みの関係を築くようにしており、利用者に与える影響が少ないよう配慮されている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間計画が作成されており、参加した外部研修の内容は他の職員に伝達研修という形で報告されている。また、全職員が個人目標を毎年立て取り組む「目標管理制度」も実施されている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム協会に参加して学習会や交換研修、交流等を進めており、ネットワークを活用しながらサービスの質の向上に努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者がこれまでに培ってきた経験も活かして、畑仕事、料理の準備、皿洗い等をしてもらったり、また、料理の味付けや伝統行事を教わりながら、利用者と職員と一緒に過ごすようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が利用者の思いや意向を詳しく把握できるように、利用者と話し合うこと、また、利用者の視点に立って「気持ちシート」を6ヶ月毎に作成して検討することに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日1名の利用者について検討会議を行っており、月2回は一人ひとりの利用者の検討を行うようにしている。また、半年毎に介護計画を見直し、本人、家族の希望を取り入れた計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に変化が見られた場合は、その都度検討や見直しを行い、状況に応じた介護計画になるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	協力医療機関からの往診をほとんどの利用者が受けて いるが、必要に応じて、家族と職員が協力、連携し、他 の医療機関でも適切な医療が受けられるように支援し ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	利用者の状態を考慮しながら、重度化対応の話し合い が家族やかかりつけ医とも行われており、ホームとして 「できること」「できないこと」について説明しながら、共 通認識が持てるように支援されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	職員全員と個人情報保護に関する誓約書を交わし、プ ライバシー保護の認識を高めるようにしている。また、 言葉かけや対応は利用者に合わせて行う、記録の記 入や保管は事務室で行うことが徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	目安としての日課はあるが、利用者一人ひとりのペー スを大切に、希望や体調を見ながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、配膳、後片付けを利用者と職員が共に行い、食事も和やかな雰囲気の中で一緒に食べている。また、ドライブがてらの外食、行事食など、利用者の希望や好みも取り入れながら、食事が楽しみになるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を聞きながら一人ずつゆっくりと入浴しており、また、入浴したくない人にはタイミングを見て再度声をかけるなどの対応が行なわれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴も考慮しながら、畑仕事、料理、ぬり絵、ゲーム、貼り絵など、楽しみや気晴らしを取り入れるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天気や体調、利用者一人ひとりの希望に合わせて、散歩や買い物、ドライブ等に出かけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	管理者と職員は内部研修等でも鍵をかけることの弊害について学んでおり、日中は鍵をかけなくても見守り等によって安全に過ごせるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力も得ながら、地震、火災、水害についての防災訓練が年2回実施されており、その内1回は夜間を想定した訓練となっている。また、地元消防団への緊急時の協力依頼も行われている。		

山形県 グループホームやまゆり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	パソコンでカロリー計算を行いながら栄養バランスを考えた献立を作成している。また、利用者の水分量や食事摂取量は個人毎に記入されており、不足している方への対応につなげている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には利用者が作った貼り絵、塗り絵、昔懐かしいポスター、絵画が飾られており、また、音や光を程よく調整しながら、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には危険な物以外の持ち込みは自由であり、使い慣れた家具、仏壇、写真等を持ち込んでもらい、一人ひとりが居心地よく過ごせるようにしている。		